

5月の植物

クスノキ (クスノキ科)

学名 : *Cinnamomum camphora*(L.)Presl

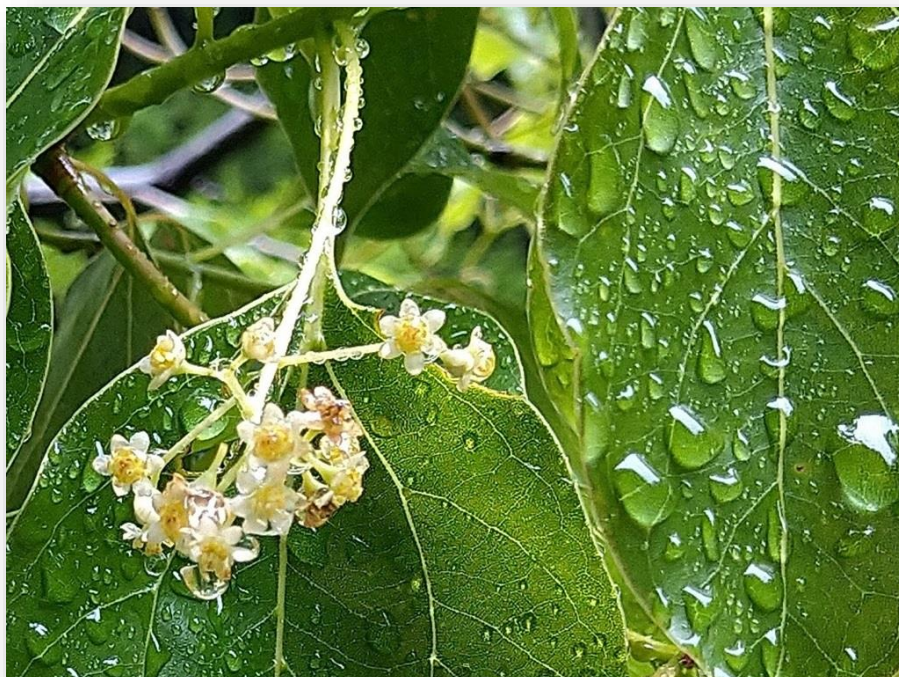
クスノキと聞いて何を思い浮かべるだろうか。川古の大楠、武雄の大楠、県庁お堀端の楠並木…樟の栄える国(栄国)が佐賀の由来になったと言われる程、県内にはクスノキの巨樹が多い。たくさんの葉を繁らせた大きくて立派な立ち姿は印象深い。また、木によって、色とりどりの新緑(新葉)もとても美しい。

では、花は…? 昭和29年に佐賀県の花に制定された「クスの花」だが、思い浮かぶ方は少ないかもしれない。5月に花盛りとなり、この時期、木いっぱい咲いているが、目立ちにくい。白っぽい薄黄色の小さな花(3~4ミリ)は、新葉に紛れてしまうのだ。だが、近づいて良く見ると、とても可愛らしい。6枚の花弁をパツと広げ、雄しべと雌しべが良いアクセントになっている。まとまって咲いている様子は白い金平糖を思い出す。サクラやツツジ、ポタンといった華やかな花の名所もある中、この目立たない、だが有用な木の花を「県の花」に選ぶーそこに実直な県民性を感じるのは私だけだろうか。

今回、調べていて驚いたことが1つあった。県旗もクスの花を図案化して、佐賀県の栄える姿を象徴したものだった。「生地はクスの葉の色を基調にした深緑色で希望と平和を、白い花弁は公明と清潔を、朱赤色の雌しべと雄しべは誠実と情熱を、全体の形は調和ある力強い発展を表している」そうだ。あの小さな花をちゃんと見て図案化し、シンボルにまでした方々がおられた。そのセンスに、大事なものを見落とさない、ぶれない意志の強さのようなものを感じ、当時の先達に想いを馳せる。県の木「クス」だけでなく、県の花「クスの花」、おおいに納得した次第である。

今年、SAGA2024国民スポーツ大会が佐賀県で開催される。県旗に描かれたクスの花が、佐賀サンライズパークの会場に大きく舞うことだろう。

(文・写真：神代智子)



引用・参考文献

佐賀の街路樹・庭園木(佐賀植物友の会) 1998年
ふるさと植物誌(文・貞松光男 絵・金子 剛) 1999年
全国知事会 National Governors' Association ウェブサイト